

吹田市立博物館 令和元年度夏季展示 「めぐる・かわる・つながるー自然の循環のふしぎー」

筏 隆臣・内田陽造・越智みや子・河野三重子・芝野 薫・西野 稔・林 暁子・
檜田清治・藤田和則（以上、夏季展示実行委員）・高橋真希（吹田市立博物館学芸員）

はじめに

吹田市立博物館では、毎年、小・中学校の夏休み期間に吹田市の自然と環境をテーマにした夏季展示を開催している。この展示は、当館が公募した市民による「夏季展示実行委員会」が、展示テーマを決め、その企画（関連イベントを含む）・準備・運営を行っている。博物館における市民参画型展示事業としての活動の一環でもある。

令和元年度の夏季展示は「めぐる・かわる・つながるー自然の循環のふしぎー」と題して、自然の中に見られる循環について展示を行った。その内容は、人体、生きもの、身近な自然、水、宇宙を小テーマとした。

展示の概要

上記の各小テーマのタイトルと展示内容は、次のとおりである。

【人体の循環】

生命維持の根幹でもある血液の体内循環について、人体模型とヒトの血液循環図によって解説した。血液循環を体感できるよう、実際の医療現場で使用される聴診器を置いて、体験してもらった。

【身近な自然の循環】

食物連鎖によって生命を「つなぐ」という観点から、吹田市内に生息する鳥・昆虫の標本を中心に生態ピラミッドを表現する展示手法を取り入れ、実際にピラミッド状に配置を行い、ひと目で理解できるように工夫した。



写真1 展示風景



写真2 人体の循環



写真3 身近な自然の循環

【水の循環】

「地球の水の循環」は、昨年度はパネル展示で取り上げたテーマだったが、今年度は立体ジオラマ模型を製作し、より視覚的に理解できるようにした。

【宇宙の循環】

展示室内に太陽系惑星の配列を 500 億分の 1 で再現し、太陽からの距離感を演出した。惑星の位置にはホワイトカラーコーンを用いて、惑星の画像と解説を行った。また、地球と月の重力差を体感するコーナーも設置した。

さらに、昔の人々の宇宙観、暦の歴史、近代天文学、最新の宇宙探査など人と宇宙の循環の関わりを解説した。

【生きものの循環】

植物の様々な形の種の標本や模型より種の移動の工夫、鳥の卵の形や色の違いなどから、生物がいかに生命をつなぐよう工夫しているかを考えるものであった。風で種が運ばれる実験するコーナーも設けた。

おわりに

今年度のテーマは「循環」でした。地球は太陽のまわりをめぐり、地球上では季節が生まれる。動物の血液は体の中をめぐり、生き、次の世代に命をつないでいる。私たちの回りの自然や環境の中には、細胞のような極小の世界から宇宙の果てまで様々な「循環（めぐる・かわる・つながる）」がある。会期中には多くの子どもたちが観覧にやってくる。子どもも大人もこの展覧会を通じて何かに気づき、興味を抱ききっかけになればというのが今年度のねらいでもある。来年度はさらに深化（進化）した「循環」展を予定しており、すでに「実行委員会」を立ち上げ、体験コーナーやイベントもより充実させるよう企画会議を始めている。ぜひ、夏休みにはご来館ください。

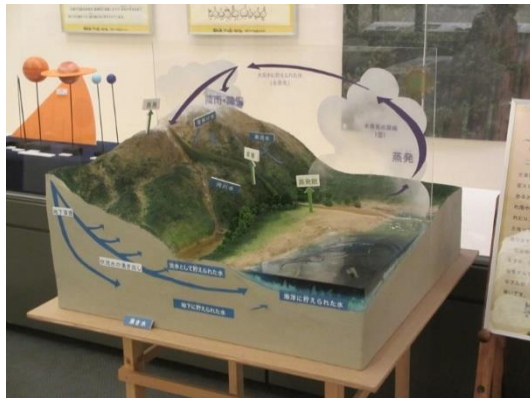


写真4 地球の水の循環のジオラマ



写真5 惑星の配列展示



写真6 人と宇宙の循環



写真7・8 生きものの循環（左/種 右/卵）の展示